

大学生としての自己責任の自覚



商学部長

さかいしょうざぶろう
酒井正三郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今日から皆さんは大学生です。これからは、皆さんが行うすべての選択には自己責任がともないます。大学には高校と違って手とり足とりといった指導はありません。大学では他人に迷惑を及ぼすものでないかぎり、個人の意見や行動は完全に尊重されます。したがって、そこではつねに自己責任が問われることとなります。

それではこの自己責任とは何でしょうか？ 実際の学生生活の文脈にそくして具体的に考えてみると、私はさしあたり、これは次の三つの能力や作法を身につけることを意味するといえるのではないか、と思います。

第一は、主体性です。これは、自分の本当にやりたいこと、興味の在り処を自覚し、これから進むべき道

を自分で考える、ということですが。

第二は、論理的思考力です。これは、ものごとを因果関係にそつて筋道立てて考える力、首尾一貫性を持つて整理する力である、ということができます。自己責任とは、自分の在り方を論理的に把握する、そうした姿勢の中からしか生まれえないものであるからです。

そして第三は、創造的批判能力です。議論等をつうじて自分とは別の見方に気づき、多様な視点への配慮を持ち、ぶつかり合う価値観の中で自己の相対化ができる人間になる。換言すれば、これは他人からの批判に対してきちんと自己を修正していける能力、ということですが。

図書館やITセンター、また学識経験豊かな教職員の存在など、中央大学には以上の三つの能力や作法を身につけるために必要な物的・物的条件はそろっています。

皆さんが、これらを活用して、自己責任を自覚した大学生へと成長させますよう心より祈念しています。